

自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	グループホームハートフル基本理念 ・福祉の原点はサービスである。サービスに徹する。 ・ゆっくり、ゆったり、共に暮らし「わはは」と笑い「まめなかな」と声かけ、共に暮らしていきましょう。そして私たちにたくさんの知恵をいただませんか。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	基本理念を、玄関・事務室に掲載している。	○
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	家族会を年3回開催していますので、そのときに家族の方に周知し、理解していただけるよう努めている。 また「グループホームだより」に掲載している。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		○
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	・地元のふれあいサロンへの参加 ・小学校の運動会への参加	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	1. 地元福祉系大学実習生の受け入れ 2. 社会福祉協議会見学の受け入れ 3. 地域包括支援センター職員見学の受け入れ等 臨機応変に応じています。	○	地域の介護者の方などを対象に、施設職員による認知症の講話や相談に応じられるようにしていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	地域の方の協力を得た避難訓練時に、「緊急避難時歩行不安定の方のために、居室に車いすを設置してはどうか」という意見が寄せられた為、各居室に設置した。	○	家族会等の行事後、アンケートを取り、反省会で評価の内容を開示し、話し合いたいと思います。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の回を重ねるうちに、委員の方から“地元住民の方からの見学希望”の要望があり、見学時には手作りおやつを利用者と共に作られ、グループホームの理解が深められた。	○	運営推進会議と家族会を年3回行いました。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる			家族会行事には、案内を送付して、参加していただきました。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	外部研修・内部研修を受け、全体会議にて発表している。	○	パンフレットや制度の説明など、職員の目の届くところに設置して周知を図りたい。 また、相談を受けるときには、パンフレットなどで説明できるようにしたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている			パンフレットや制度の説明等を玄関に掲示し、また相談を受けるときには、パンフレット等で説明している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約をする前に事前面接を行い、家族・利用者の不安や要望を伺うと共に十分な説明をしている。解約の際は事前に利用者の状態を説明し、家族に同意をいただいている。	○	個別担当者から、近況報告を毎月出せるようにしていきたい。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月、苦情相談員の方の来所。関市役所より苦情相談員（2名）の来所があり、明るい雰囲気を作って話しやすいようにしている。	○	年間行事計画の中に相談員の派遣を明記し、報告書も議題に載せるようにしたい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	健康上の問題発生した時は、その日のうち若しくは翌日に報告している。面会時には日々のことを報告するようにしている。金銭管理は、毎月報告している。		請求書等送付時（毎月10日前後）に個人の出納帳も送付している。ハートフル新聞も毎月発行し、近況をお知らせしている。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会行事時、アンケート用紙を配布・回収し、報告書に記載し、次回家族会時に家族に配布し、反省会をしている。そこで意見交換をし、次年度の行事等の開催に反映させていただいている。		意見や苦情は規程があり、それに従って解決活動をしている。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	グループホーム会議にて、意見を出し合い、運営に反映しています。		日々、状況が変化するので、その度職員と話し合いながら行っています。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	併設施設の職員、医務看護師の応援ができていますので柔軟な対応をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動等はなるべく緩やかに対処している。離職時の欠員対応では、以前勤めていた馴染みの職員を依頼できるようにしている。	○	今後は、地域の方や実習生の方にもボランティアを募り協力を得たい。
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	就業年数に応じた研修計画がある。また、資格が取れていない職員には、ヘルパ-2級の資格取得の確保を目指してもらう体制をしている。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会中濃支部に加入しており、意見交換をしたりして交流を図っている。	○	20年度は中濃支部の支部長を任命されたので、更に新しく開設した事業所等とも交流を図りたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	1. 職員の親睦会 年1回 2. グループホームでの親睦会 年1回 3. 年2回の面接（職員） 4. 併設施設食堂へ30分休憩に行く 5. 併設施設の足つぼマッサージ		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	法人目標に沿った部門目標を立て、それに合わせた個人目標の設定をすることで、職員の「やる気」を引き出す取り組みを行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前面接時、利用者・家族がゆっくり話しをできるように傾聴に心掛けている。 併設の居宅サービスを受けておられた方も多いため、居宅サービス提供中にグループホームの職員が声を掛けて様子を伺ったり、他職員より情報をもらいながらしている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談に来られた時は十分に話を伺い、入所まで期間があるときは、電話で様子を伺い相談に応じている。		
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者、家族のニーズに応じて、併設施設の相談員と連携をとっている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所前に併設の居宅サービスを受けていただいたり、お試し的な利用をしていただき、徐々に慣れていただくようにしている。 また、入所後も家族の方と外出や外泊をお願いしている。（可能な方のみ）		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	畑で野菜作り、昔のおやつ作りや季節の食べ物、外出などを通じて、昔取った杵柄を引き出して教えていただいている。	○	利用者の方と一週間に一度、喫茶店や昼食などで外出して、利用者様が求めていることや不安なことなどゆっくりと話を聞くようにしている。

岐阜県 グループホーム ハートフル

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族会行事を年3回開催し、家族の方の協力を得ながら外出支援を行っています。	○	20年度より、2ヶ月に1度の運営推進会議にも家族の方に参加していただけるよう、案内状を送付するようにしたい。（現在は家族会代表1名のみ）
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	独居で生活をされ、忙しい家族の方より仕事の合間などに世話を受けてきた方が多く、ホームの入所をきっかけに家族にも気持ちの余裕ができたのか、面会や外出等家族と一緒に出掛けられることが多くなった。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	デｲｯﾍﾞｽ利用者であった方には、利用当時にお知り合いになった方がご利用のときに、会うことができるような配慮をしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者の方それぞれに相性があり、好き嫌いもあるので食卓の座る場所や居室の配置等配慮している。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	家族の方より、退所後も草引きや外出の際の支援をしたいと申し出があった。	○	退所された家族の方よりボランティアで支援をしたいと申し出があり、今後は草引きや外出などをお願いしたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	事前面接時や入所に至るまでにご家族との電話連絡を密にして、想いを把握するように努めている。また、暫定ケアプランを作成する時にもお聴きしている。	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面接時には、特にご家族やご本人より生活歴をじっくり伺い、バックグラウンドアセスメントに詳細な記録をし、ケアカンファレンスに役立てている。	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	入所後暫定ケアプランから本プランまでの間に、生活経過記録をしっかりと記録している。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	毎日の生活の中で、ご本人の想いや希望などをさり気なく伺い、担当者に記録として残し、ご家族とも相談しながらご本人の意見を反映できるよう、個別に検討し介護計画の作成をしている。	○ 面会の際には、ご家族に近況報告や希望等を必ずお話をし、意見等伺ってる。面会が少ない方には、アンケートをお配りしているが、それ以外では意見や希望を伺うことが困難な為、カンファレンスに参加していただく機会をどうすれば作れるか検討したい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	その都度変更し、訂正して、利用者・ご家族に説明している。	○ 利用者のADLが個々に違うので、ADLの状態に応じて2ヶ月で計画を立て直している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活での気付きや様子など、関わった職員が記録に残し、情報を共有しながら、1ヶ月に1度のモニタリングで見直しをしている。		介護計画の実践は必ず日誌（個人）に記入（毎日）しています。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設施設の応援を受け、急な受診等対応している。特養の看護師も、24時間体調に関して対応している。特別な外出では併設施設の運転手の応援を受けることがある。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	今年度、運営推進会議の開催に合わせて、避難訓練を行った。 また、5周年記念にはフラダンスのボランティアさんが来ていただいた。	○	今後も色々な行事の際にボランティアの方に協力していただけるよう、私共も積極的に活動をしていきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	・理美容ボランティア ・併設特養のサークル活動への参加 (茶華道・小物作り・御詠歌等)		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している		○	利用者はもとより、在宅で生活しておられる認知症高齢者の為にどんな活動ができるか考え、地域包括支援センターと連携したい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人・ご家族の希望に応じ、かかりつけ医の受診を希望される方はそのように対応している。特にない方には、往診がしていただける協力医にお願いをしている。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	精神科医が契約により、毎月2回往診がる。また、それ以外急な状態変化のときは電話で指示を仰ぎ、専門的なアドバイスをいただいている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	併設施設の看護師に逐一報告し、指示を仰いでいる。また、夜間は看護師が当番で連携しているので、健康管理等に十分対応している。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院者が出た場合、管理者は週1回は面会に伺い家族より状態を聞き、また病院関係者への情報化交換などをして、家族・利用者の相談など対応している。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期を迎えられた利用者の方は、家族とかかりつけ医、施設長、管理者と状態に応じてその都度繰り返し話し合った。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	協力医に24時間連絡を取れるよう協力していただき、また、併設特養看護師にも24時間連絡を取れる対応をした。ご家族には夜間泊まっていたりたりと協力を依頼し、常に協力医、看護師、家族、職員と相談をしながらターミナルケアに取り組むことができた。	○	ターミナルケアを迎えている家族がどこまで協力していただけるか、家族の希望は最後までと言われるが家族の状況により困難な場合もあるので、ターミナルケアの十分な説明をしていかなければならないと思います。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	ほとんどの方が併設特養へ移られている。日頃より併設特養での色々な行事等に参加し、顔馴染みになっているためスムーズに住み替えができています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の方には個々に合わせた声掛けをしている。特に排泄の声掛けには気をつけています。個人情報に関しては、法人が5原則を定めそれを遵守している。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	毎日の生活の中で、入浴は何時頃が良いかとか、食事で何が食べたいか伺い、常にオープンコミュニケーションの声掛けに留意している。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	天気や季節に応じて、利用者さんに意見や希望を聴き外出支援を行っている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	入所時に家族利用者の希望を聞き、望む店に行かれる人には行ってもらい、定期的に行っている。 (月1回の人でもいれば、月2回の人もある)		家族やご本人の希望を伺い、ケアプランに取り入れ計画通りに行っている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ある人は食器並べ、ある人はテーブル拭き、台所で盛り付けをしていただいたり、できる事をしてもらいながら、一緒に準備や食事を楽しんでいる。食事が終わってもすぐ動かないようにしている。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	喫煙は換気扇の下の所にテーブル・イスをセットしてあるので、そのの場所をお願いしている。おやつは、買い物の際にご自分で購入されたり、ご本人の好みです。お酒を飲まれる方はみえませんが、可能です。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人ひとり排泄のパターンが違うので、利用者さんに合った時間帯と声掛けをしている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	大まかな入浴日は決めているが、その日の気分や体調で変動することが多くある。また、色々な入浴剤（温泉シリーズ）で今日は何にするか伺い、楽しんでいただいている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	そのときの気分や体調に応じてリクライニングソファで休息したり、コタツで横になっていただいている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	喫茶店、買い物、外出などに行きたいと言われる利用者の方には、最低週1回の外出支援をしている。また、利用者の方が利用者のお世話をされたりしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人管理できる人には、自分で管理していただき、買い物の際は自分で支払っていただいている。 管理が困難な方にも、買い物の際の支払いができるよう支援している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	併施設内で行われる行事には必ず参加している。年間での外出支援は全員で参加が1回、少数での外出支援は月4回、買い物などは1回に全員の方をお連れできないため、ある程度の順番や体調を考慮して行くようにしている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	昭和村、花フェスタなどは家族の皆様に協力をお願い掛けた。 また、個人的に家族だけで外出・外泊などに出掛けていただくよう、折にふれてお話しをしている。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の方の都合を入所時に伺い、事務所より電話をかけていただいている。 家族から届いた手紙は、職員が読み聞かせしたりしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	毎週、ひ孫を2人連れて面会に来られたり、友人・知人、利用者の馴染みの人達に気軽に立ち寄っていただいている。 また、野菜や漬物など、家族・知人の方にはいただくことも多い。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内で身体拘束ゼロ委員会を設置しており、毎月の部門会議時には、身体拘束委員を中心に意見交換や勉強会を行っている。		

岐阜県 グループホーム ハートフル

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	天気の良い日は、日中網戸にして風通しをしている。 玄関は夜間鍵を掛けますが日中は開放しています。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常に利用者の方と寄り添いながら（隣に座っていることが多い）、体調の変化がないか様子を見ている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	命に関わるような物品以外は、生活する身の回りの物はある。今までに、事故等はありません。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故対策委員と管理者でマニュアル（転倒・誤薬等）を作成し、個々に目を通している。 また、事務室に大きくマニュアルがはってあります。		
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	内部研修でAEDの操作を学び、実際にグループホームで急変された利用者さんに、看護師が使用しました。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	運営推進会議で年2回避難訓練の様子を見ていただき、「もし何かあれば何時でも協力をしますよ」と言っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	ケアプラン上に明確にして、ご家族に十分な説明をし、その人らしく生活を送っていただいている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	併設施設の看護師と毎朝ミーティング時に顔を合わせているので、利用者の詳細報告をしている。また、協力医の速やかな往診対応や指示等を受けている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	何年も同じ薬を服用されているので周知はしている。新しく処方（かぜ薬が多い）される薬があると、薬情報に必ず目を通し、連絡帳にも記載している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎朝、バナナ入りヨーグルトや牛乳を全員の方に食べていただいている。 職員の中に調理士をしていた方がいるので、便秘予防の食材やメニューを考えて提供している。 犬の散歩、特養への散歩などで体を動かしていただくようにしている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	朝・夕に口腔ケアをしています。 義歯の方には、ポリドントで毎日洗浄していただいている。	○	義歯の方は、毎食後のケアに取り組みたい。
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	現在、極刻み、刻み、おかゆ、軟飯と個々に合わせ、量なども個々に合わせている。 10時、15時のおやつ時は水分の確保を目的としている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	利用者全員にインフルエンザの予防接種をしていただいている。 また、ノロウイルス対策として、毎日夜間帯に手摺、廊下、イス、テーブル、トイレ（3ヶ所）、玄関等を消毒している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	夜勤者が冷蔵庫の食材の日付け確認、毎食事準備後にまな板のハイター消毒をし、食器類も十分に洗い乾燥させている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関には表札をつくり、周りには花がいっぱいに入ったプランターを置き、親しみやすくしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレ（2ヶ所）に赤いのれん、お風呂場には「湯」と書いたのれん、浴室窓にはシャワーカーテンをかけ、日差しよけにしている。 居間にはコタツを設置し、いつでも使っていただけるようにしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホーム内には、コタツ・ソファやイスが点在しており、自分の好きな場所で自由にいただいている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	新しく入所された方には、事前に家で使用していたタンスやテレビ等お持ちいただいている。敷布団も持ってきていただいている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	排泄後は、消臭スプレーを使用する。リビング中央に湿度、温度計を設置しているので常に調節をしている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	お風呂・トイレに新しく手摺を設置し、浴室もターンテーブル、浴槽内にすのこを設置して自立した生活を送っていただけるよう支援をしている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	ゆっくり、優しく、声掛けをしている。隣に座って、一緒に歌を唄ったりしながら、安心して生活を送れるよう支援をしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	天気の良い日は中庭でお茶を飲んだり、外気浴をしたりして活用している。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

Ⅴ. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

岐阜県 グループホーム ハートフル

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働いている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

＜グループホームハートフルとして特にアピールしたい点＞

グループホームハートフルは社会福祉法人平成会に属し、特別養護老人ホーム（入所70名・短期入所20名）、デイサービスセンター（40名）、居宅介護支援事業所（ケアマネジャー4名）というように様々なサービス提供の場と併設しています。特に高齢者の方は、突然様態が急変したり、お一人おひとりが何らかの疾病を持っておられたりと、医療とは切っても切れない状況にあります。そんな時、併設施設の看護師がすぐに駆けつけられるということは、利用者・ご家族様にとっても大変メリットが大きいと思われます。また、協力医も24時間対応していただいています。

認知症特有な症状で処遇困難な方が居られても、併設施設精神化嘱託医や相談員、ケアマネジャー等のネットワークがその場で受けられることで、ホーム職員も臨機応変な判断をいつも強いられることはなく、精神的にも負担軽減ができるため、介護者・利用者が共に安心・安全な生活が送れる質の高いケアが提供できるのではないのでしょうか。また、法人でISO9001, 2000版を平成15年に取得していますので、法人目標、職員教育、苦情解決等様々な決め事を通じて改善を重ねていくシステムが構築されています。